23

医学史研究会

岡田　靖雄
青柿舎（精神科医療史資料室）

1960年5月5日に，日本科学史学会と日本医史学会との共催で，「緒方洪庵150年記念医学史研究集会」が開かれた．これは，日本科学史学会のなかに医学史部門をつくりたいと，丸山博大阪大学教授（衛生学　1909–1996）が狙ったものであった．これを機に医学史研究会準備会のようなものが出来上がり，翌年11月4–5日に第1回医学史研究会が開かれた．それをうけて，その関東地方会準備会が12月にひらかれ，1962年4月5日に第1回例会が開かれた．

はじめの頃，日本医史学会は江戸時代までを主対象とし，医学史研究会は明治以降を対象としていた．主要会員には両方に共通する人がかなりいた．医学史研究会の事務局を担ったのは，大阪大学医学部衛生学教室の人たちであった．会員には保健婦が比較的多かった．関東地方会の中心は川上武（1925～2009）であった．

医学史研究会の単独総会は1989年の第29回まで開かれ．そののち日本医史学会関西部との合同総会が何回かあり，最近は年2回の例会を行なっている．機関誌『医学史研究』は1961年に創刊され，年4回発行の期間もあったが，1981年頃からは年間1号となっている（2016年に第98号）．投稿の多かった人として，阿知波五郎，伊達一男，藤森弘，林正秀，川上武，神谷昭典，木下安子，小松良夫，丸山博，松田方一，松田武，三井駿一，南吉一，三浦豊彦，長門谷洋治，中川米造，野村拓，岡田靖雄，宗田一，浦上五六，山城正之などの名がみられる．

機関誌のほかに，『医学史通信』が第7号まで，ついで復刊の『医学史研究通信』が1971年の第14号までだされた．また初期に，重要文献の復刻が数冊だされた．

関東地方会の活動により多彩であった．医学史研究会東京集会は1963年の第1回から1976年の第13回に至っている．例会はほぼ毎月1991年頃まで行われていた．研究集会，例会の通知，内容紹介をする『医学史通信』は1991年の第95号まで，『医学史短信』は同年の第200号までなされていた．

研究集会とは，杉森久，川村善三郎，丸山博，若月俊一，馬島僩，髙橋實，小宮義孝，太田典禮，曽田長宗，千田是也など，多彩な人が講演した．1965年の例会歴史学講義シリーズでは，家永三郎，遠山茂樹，羽仁五郎，色川大吉，尾藤正秀，武谷三男，川村善二郎の講義があり，そのほかに科学論・技術論学習会，女性史セミナーなども行われた．医学部闘争についての報告も何回かあった．かなり長く関東地方会の事務局を務めたのは，小坂富美子であった．

『医療社会化の道標　25人の証言』（1969年，勁草書房・東京）は，川上を中心に関東地方会が生み出したものである．ベストセラーとなった羽仁五郎『都市の論理（1968年，勁草書房・東京）も，関東地方会の延長である『羽仁先生をかこむ研究会』の成果である．

わたしは関東地方会の準備段階から参加しており，大阪での総会にも何回か出席した．東京大学での闘争が激しくなってからは，例会に出席出来なくなった．『医学史研究』には，「森林太郎“統計論争”の背景」（第49号）「戦前の精神科病院における死亡率」（第55号）「ソヴェト医学研究会の歴史―東京・京都を中心に―」（第87号）他を書いている．例会のあと喫茶店での雑談も楽しく，しかも刺激的なものであった．私が編集した『精神医療　精神病はなおせる』（1964年，勁草書房・東京）の構想も，そこでの雑談に発している．